

高知県桜川水系で 25 年ぶりに確認されたトサシマドジョウ

細木信吾¹・高橋弘明²¹ 有限会社 エコシステム² 株式会社 相愛

写真 *Cobitis tosaensis* Takahashi, 2026 トサシマドジョウ (左: メス成魚, 右: メスの可能性が高い小型個体. 桜川水系, 2026 年 4 月 14 日撮影)

種の記録

Cobitidae ドジョウ科

Cobitis tosaensis Takahashi, 2026

トサシマドジョウ (写真)

生態写真 撮影年月日: 2026 年 4 月 14 日. 撮影場所: 高知県須崎市 桜川 (本種の希少性に配慮し, 詳細な地点を省く).

種の特徴

写真個体は, いずれも体高が全長に対して高い, 背鰭基部より前の L3 斑紋の太さが眼径とほぼ等しい, 最も前方の L5 斑紋が棒状である, 尾鰭基部の上下の斑紋が互いに離れる, 体色の白みが強いなどの点, Takahashi (2026) が示したトサシマドジョウの特徴と一致したため, 本種に同定された.

備考

本種は高知県の固有種で, 伊尾木川, 安芸川, 赤野川, 和食川, 夜須川, 香宗川, 物部川, 国分川, 久万川, 鏡川, 仁淀川, 奥浦川, 桜川, 新莊川の 14 水系から記録があるが (清水・高橋, 2017; 高橋, 2015, 2020; 岡村・高橋, 2025; Takahashi, 2026), このうち桜川水系では 2001 年に高知県版レッドデータブック (動物編) 作成のための調査で確認されて以来, 2018 年の同改訂版作成のための調査を含め, 著者らの一連の調査を含む各種魚類調査においても全く確認されず, 絶滅が危惧されていた (高橋, 2015, 2020). 今回新たに一支流から潜水目視により生息が確認された. これは桜川水系からの 25 年ぶりの生息確認となるため, 撮影された水中写真に基づき報告する. この支流は流程約 2.5km, 水面

幅は 2–4m 程度と小規模で, 本種が確認された範囲は縦断方向にわずか 50m 程に過ぎず, 確認個体数も 10 尾に満たないことから, 水系内における存続基盤は極めて脆弱である.

引用文献

- 岡村恭平・高橋弘明. 2025. 高知県赤野川で撮影されたトサシマドジョウ. 南予生物フィールドノート, 25026.
- 清水孝昭・高橋弘明. 2017. シリーズ・Series 日本の希少魚類の現状と課題 四国固有の希少シマドジョウ属魚類の現状と保全: ヒナインドジョウ, トサシマドジョウ. 魚類学雑誌, 64(1): 65–69.
- 高橋弘明. 2015. 高知県におけるシマドジョウ属 2 種の分布・生息状況および形態的特徴. 日本生物地理学会会報, 70: 73–86.
- 高橋弘明. 2020. 連載 身近な生き物 トサシマドジョウ. 特定非営利活動法人四国自然史研究センター News Letter, (69): 3–5.
- Takahashi H. 2026. A new species of spined loach from the southern Shikoku Island, Japan (Cypriniformes: Cobitidae). Zootaxa, 5768(3): 381–391.

(2026 年 4 月 17 日受付, 2026 年 4 月 21 日公開)

連絡先: 細木信吾 (e-mail: e-system.sh@ae.auone-net.jp) (Shingo Hosogi and Hiroaki Takahashi. 2026. *Cobitis tosaensis* Takahashi, 2026 (Cypriniformes: Cobitidae) confirmed to be living in the Sakuragawa river system in Kochi Prefecture for the first time in 25 years. NS Fieldnote, 26012)